

日本動物学会九州支部（第67回）
九州沖縄植物学会（第64回）
日本生態学会九州地区会（第59回）
沖縄生物学会（第51回）

合同沖縄大会プログラム

変更点、追加点、注意点を赤字で示しました。ご注意をお願い致します。

【日程】

5月24日（土）

- 11：00～11：30 動物学会九州支部・九州沖縄植物学会委員会
 - 11：30～12：00 生態学会九州地区
 - 12：00～ 受付
 - 13：00～14：00 合同ポスター発表（奇数番号発表）
 - 14：00～15：00 合同ポスター発表（偶数番号発表）
 - 15：10～15：40 動物学会九州支部・九州沖縄植物学会総会
 - 15：40～16：10 生態学会九州地区総会
 - 16：20～17：50 特別公開講演（大学会館3階）
 - 18：00～20：00 懇親会（琉球大学生協中央食堂）
- *合同ポスター発表は、高校生のポスター発表を含みます。

5月25日（日）

- 8：30～ 受付
- 9：00～12：15 一般講演（口頭発表）
- 13：00～14：00 沖縄生物学会総会
- 14：00～ 一般講演（口頭発表）

【会場】

琉球大学共通教育棟1号館および2号館（〒903-0213 沖縄県西原町千原1番地）

5月24日（土）

（1）委員会会場：

- 動物学会 共通教育棟2号館2階 2-205（一般口頭発表A会場）
- 植物学会 共通教育棟2号館2階 2-201（一般口頭発表B会場）
- 生態学会 共通教育棟1号館1階 1-118（一般口頭発表C会場）

（2）総会：

- A会場（動物学会）共通教育棟2号館2階 2-205
- B会場（植物学会）共通教育棟2号館2階 2-201
- C会場（生態学会）共通教育棟1号館1階 1-118
- D会場（沖縄生物学会総会）共通教育棟1号館2階 1-217

（3）合同ポスター発表：

ポスター会場（P会場） 大学会館3階特別会議室および1-3階ロビー

- （4）特別公開講演： 大学会館3階特別会議室
- （5）クローク・休憩室・大会本部：共通教育棟1号館1階スタディールーム
- （6）受付：共通教育棟1号館1階玄関ロビー

5月25日（日）

一般口頭発表：

A会場 共通教育棟2号館2階 2-205

B会場 共通教育棟2号館2階 2-201

C会場 共通教育棟1号館1階 1-118

D会場 共通教育棟1号館2階 1-217

※発表件数の都合で、一部の講演は所属学会とは異なる会場になっています。ご自身の講演の会場をプログラムでご確認ください。

(5) クローク・休憩室・大会本部：共通教育棟1号館1階スタディールーム

(6) 受付：共通教育棟1号館1階玄関ロビー

※ 琉球大学キャンパス内は所定の場所を除いて禁煙となっています。ご協力をお願いします。

【受付】

(1) 受付は、24日（土）12時00分から17時00分まで共通教育棟1号館1階玄関ロビー内におきます。受付では、名札等をお受け取りください。会場では、名札の着用をお願いします。

(2) 当日参加の方は、参加費（一般5,000円、学生2,500円）を受付で納入してください。なお、懇親会に当日参加される方は、懇親会費（一般5,000円、学生2,500円）を納入してください。

(3) 講演要旨集は一部1,000円です。必要な方は、受付でお求めください。

【講演】

1. 一般講演はポスター発表（四学会合同）と口頭発表（各学会）で行います。

2. ポスター用ボードのサイズは横86 cm、縦175 cmです。A0サイズ（横85 cm、縦120cm）のポスターをお勧めします。

24日（土）のポスター発表では、原則として、奇数番号は13:00～14:00、偶数番号は14:00～15:00にポスターの前での説明を行って頂きます。

ポスターは24日（土）の午前中に講演番号のボードにはってください。画鋏は用意いたします。ポスターの撤去は、24日（土）15:00～18:00の間にご自身で撤去するようお願いいたします。

3. 25日（日）の口頭発表の時間は、質疑応答を含めて15分間です。終了時刻の5分前に1鈴、3分前に2鈴、終了時に3鈴を鳴らします。時間厳守でお願いします。

4. 口頭発表は、パソコン用液晶プロジェクターを用いて行います。発表用パソコンを各自ご持参下さい。Apple製品等、特殊な接続ケーブルが必要な場合、各自でご持参下さい。

5. 口頭発表が終わった方には次の発表の座長をして頂きますので、よろしくお願い致します。試写用の液晶プロジェクターを大会本部に設置しますので、事前の動作確認等にご利用ください。

【クローク】

クロークは以下の時間帯に利用可能です。

24日（土） 12:00～18:00

25日（日） 8:30～16:00

荷物の引き取りは、必ず時間内をお願いします。

【懇親会】

懇親会は、5月24日（土）18：00より、琉球大学生協中央食堂にて行います。

【昼食】

大学構内の食堂は、24日（土）は11：00から14：00まで琉球大学生協中央食堂がご利用できません。25日（日）は営業していませんのでご注意ください。なお、近くにコンビニエンスストアがあります。

【会場までの交通案内】

琉球大学への交通アクセスについては、次のような方法があります。

空港から大学へ直行

111, 113, 123番線（高速バス、約1時間に1本）

所要時間：約45分

経路：空港→沖縄自動車道→琉大入口下車
（下車後、琉球大学北口まで徒歩約4分）

料金720円

那覇バスターミナルから大学へ直行

97番線（琉大線）（20-30分間に1本）

所要時間：約50分

のりば：市外線バスターミナル4番ホーム

経路：バスターミナル→国際通り（牧志）→
儀保（首里）→琉大附属病院→琉大東口下車

料金：510円

路線バス（バイパス経由）（20-30分間に1本）

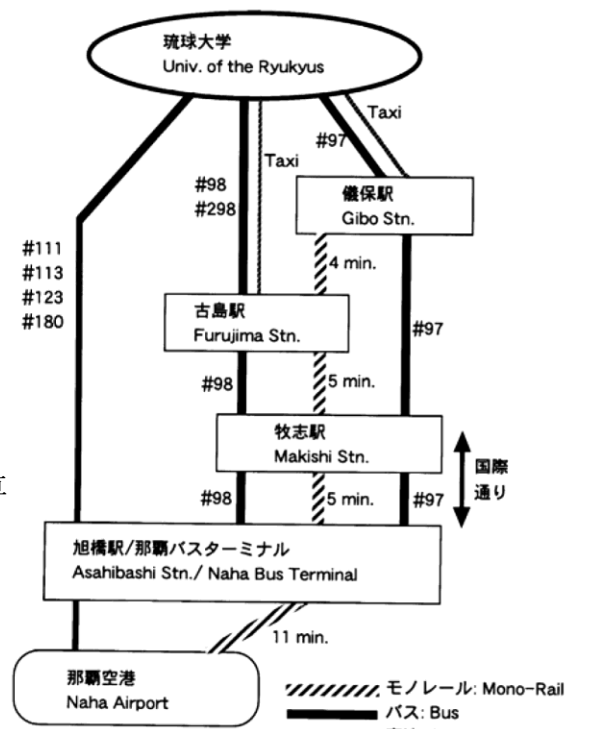
98番線（琉大線）

所要時間：約40分

のりば：旭橋バス停

経路：我那覇→バスターミナル→国際通り（牧志）→バイパス→真栄原→沖国大前→琉大北口駐
車場（終点）下車

料金：590円



【自家用車をご利用の方】

「大会会場（琉球大学キャンパス）案内図」に示しました。北口、東口、南口からお入り下さい。駐車場は、会場近くにもあります。

【宿泊】

宿泊に関しましては、特に斡旋はいたしません。

大会会場（琉球大学キャンパス）案内図



共通教育棟見取り図



1日目 5月24日(土)

合同ポスター発表(奇数番号) 13:00~14:00

合同ポスター発表(偶数番号) 14:00~15:00

場所: **大学会館3階特別会議室および1-3階ロビー (P会場)**

特別公開講演 16:20~17:50

場所: 大学会館3階特別会議室

講演者: 吉田正人 氏(筑波大学大学院・人間総合科学研究科・世界遺産専攻)

久保田康裕 氏(琉球大学・理学部)

2日目 5月25日(日)

一般口頭発表 9:00~12:15

場所: A会場 共通教育棟2号館2階 2-205

B会場 共通教育棟2号館2階 2-201

C会場 共通教育棟1号館1階 1-118

D会場 共通教育棟1号館2階 1-217

沖縄生物学会総会 13:00~14:00

場所: D会場 共通教育棟1号館2階 1-217

一般口頭発表 14:00~15:30

場所: D会場 共通教育棟1号館2階 1-217

1日目 合同ポスター発表

奇数番号 5月24日(土) 13:00~14:00

偶数番号 5月24日(土) 14:00~15:00

大学会館3階特別会議室および1-3階ロビー (P会場)

高校生と小学生によるポスター発表(P1からP10まで)

- P1 *遠藤晃・南九州大学人間発達学部. 野生生物保全のための「持続可能な発展のための教育 (ESD) ~座間味村立慶留間小における児童によるケラマジカ研究の10年
- P2 *与那嶺聡太(座間味村立阿嘉小). ケラマジカの「好きな食べ物」について
- P3 *金城奈穂(座間味村立阿嘉小). ケラマジカの「住みか」について
- P4 *川井琉丸(座間味村立阿嘉小). ケラマジカの「行動」について
- P5 *当間大聖(座間味村立阿嘉小). ケラマジカの「フン」について
- P6 *稲福凜(辺土名高校2年)・*稲垣雄亮(辺土名高校2年)・*仲村勇人(辺土名高校2年)・*外間歩(辺土名高校2年)・*金城実希(辺土名高校1年). 田嘉里川におけるオキナワヒゲナガカワトビケラの生活史
- P7 *新里美咲(辺土名高校3年)・*金城幸輝(辺土名高校2年)・*町田宗作(辺土名高校2年). オキナワオオミズスマシについて (Ⅲ) -産卵・孵化・個体数の季節変動-
- P8 *北村育海(名護高校1年). 沖縄本島西屋部川の水生生物調査 ~甲殻類の抱卵期と成長を追う~
- P9 *古波津千百合・喜納星・田邊俊朗(冲高専・生資工). 沖縄県各地からの土壌放線菌の単離とその抗菌性
- P10 *宮平拓実・与那嶺琉太・宮平真子・大城穂乃香(北山高). シリケンイモリにおける水場の利用 ~ 沖縄島北部2地点の比較

P11 *山里盛也(浦添高). 発酵の研究~イースト菌の働き~

一般のポスター発表(P12からP62まで)

- P12 *東春奈・鼠尾まい子・渡久地政汰・塚原正俊(バイオジェット). 耐塩性微生物 *Paraliobacillus ryukyensis*の全ゲノム解析
- P13 *今村聡・Muhammad Badruzzaman・竹村明洋. 外因性のメラトニンがルリスズメダいの卵形成に与える影響

- P14 *河津勲・前田好美. 飼育アカウミガメにおける卵形成に関連した血中性ホルモンおよび代謝物濃度の日変動
- P15 *大山由貴(琉球大・院・理工)・池上太郎(琉球大・理)・山本岳秀(琉球大・理)・竹村明洋(琉球大・理). ミナミトビハゼにおけるメラトニン受容体遺伝子発現の日周期性
- P16 *山本岳秀・池上太郎(琉球大・理)・大山由貴(琉球大・理工)・竹村明洋(琉球大・理). ミナミトビハゼにおける日長の生殖腺発達に与える影響
- P17 *大坂直也(琉球大・院・理工). 沖縄島に生息するナキオカヤドカリ *Coenobita rugosus* の生殖行動および日内行動の研究
- P18 *山科美美香(琉球大・院・理工). ヤイトハタにおける *Cryptochrome* 遺伝子の発現解析
- P19 *本田葉月(琉球大・院・理工)・磯村尚子(沖縄高専)・竹内悠記・竹村明洋(琉球大・理). コユビミドリイシ *Acropora digitifera* におけるモノアミン代謝酵素遺伝子のクローニングと産卵期における発現解析
- P20 *平良東紀(琉大農). 沖縄に自生する各種植物由来の生体防御タンパク質の研究
- P21 *金城亜季・中村宗一(琉球大・理). クラミドモナス接合子形成後の葉緑体の両親性・父性遺伝率の変動
- P22 *松下祐美¹・武智克彰¹・滝尾進^{1,2}・高野博嘉^{1,3}(¹熊大・自然科学,²熊大・沿岸域,³熊大・IPPS). ヒメツリガネゴケ葉緑体分裂に関わるペプチドグリカン合成酵素ペニシリン結合タンパク質は葉緑体中で複合体として存在している
- P23 *中原仁¹・武智克彰¹・滝尾進^{1,2}・高野博嘉¹(¹熊大・自然科学,²熊大・沿岸域). ヒメツリガネゴケのグリコール酸/グリセリン酸トランスポーター PpLrgB の機能解析
- P24 *大城彩音¹・伊波朋哉¹・鼠尾まい子¹・東春奈¹・渡久地政汰¹・高木博史²・塚原正俊¹(¹バイオジェット,²奈良先端大). 沖縄県の自然界から採取したハイビスカス酵母による製パンへの応用
- P25 *安里貴舟(琉球大・院・理工)・日高道雄(琉球大・理・海洋自然). 培養褐虫藻の遊走細胞形成に及ぼす環境要因の影響
- P26 *岩谷拓則(琉球大学・院・理工学研究科)・湯山育子(遺伝研)・日高道雄(琉球大学・理工学研究科). チオレドキシンを造礁サンゴのストレスマーカーとする試み
- P27 *井口亮(沖縄高専)・渡邊謙太(沖縄高専)・上地輝(沖縄高専)・酒井一彦(琉大・熱生研)・鈴木淳(産総研・地質情報)・野尻幸宏(国環研). 酸性化海水に対する亜熱帯性サンゴの石灰化応答の種間比較
- P28 *Kavousi Javid(琉大・理工)・井口亮(沖縄高専・生物資源)・田中泰章(琉大・瀬底実験所)・中村崇(琉大・理). Species-specific responses of scleractinian corals to cold temperature stress

- P29 *Arsanti Subarkah(琉大・院・理工)・澄本慎平(琉大・院・理工)・照屋俊明(琉大・教育)・須田彰一郎(琉大・理). Macroscopic colonies of cyanobacteria from Minnajima Island Okinawa
- P30 *泉水奏(琉球大・医)・池田治(神奈川県川崎市). 民生用デジカメを用いた、安価な顕微鏡写真撮影法II (無限遠焦点補正系顕微鏡において)
- P31 *高木啓吾(九州大・院システム生命)・山脇兆史(九州大・院理・生物科学). カマキリ捕獲行動における前肢基節の筋肉の機能の推定
- P32 *藤田立信・川上麻姫(九大・院システム生命)・市川敏夫(九大・院理・生物科学). ゴキブリの爪間盤の動作を監視するセンサーシステム
- P33 *檜山充樹(琉大院・理工)・平良涉(琉大院・理工)・岩田大生(琉大院・理工)・岩崎茉世(琉大院・理工)・野原千代(琉大院・理工)・大瀧丈二(琉球大・理). 小型の蝶ヤマトシジミ (*Zizeeria maha*)の北限個体群で発生した色模様変化型の出現機構について
- P34 *岩崎茉世(琉球大・理工). ヤマトシジミ(鱗翅目、シジミチョウ科)における個体サイズと温度の関係
- P35 *下村彩^{1,2}・重山珠紀²・宮崎信幸²・森内沙矢香²・有馬進^{1,2}・鈴木章弘^{1,2}(¹鹿児島大・連農, ²佐賀大・農). 光照射によるマメ科植物と根粒菌の共生系へ及ぼす影響
- P36 北原駿平・大石峻久(明治大・農)・*松野泉(明治大院・農)・渡辺信(琉球大・熱生研)・Liang-Kong Lin(Life Sci., Tunghai Univ.)・太田英利(兵庫県立大・博物館)・溝口康(明治大・農). SRY遺伝子多型を用いたリュウキュウイノシシ集団遺伝構造解析
- P37 小西清夏・吉川佐樺(明治大・農)・*谷口大樹(明治大院・農)・渡辺信(琉球大・熱生研)・Liang-Kong Lin (Life Sci., Tunghai Univ.)・太田英利(兵庫県立大・博物館)・溝口康(明治大・農). マイクロサテライトマーカーを用いたリュウキュウイノシシ集団遺伝構造解析
- P38 *吉川佐樺・小西清夏(明治大・農)・渡辺信(琉球大・熱生研)・Liang-Kong Lin(Life Sci., Tunghai Univ.)・太田英利(兵庫県立大・博物館)・溝口康(明治大・農). ミトコンドリアDNA多型を用いたリュウキュウイノシシ集団の分子系統解析
- P39 *梅本巴菜^{1,2}・傳田哲郎¹・國府方吾郎^{2,3}・横田昌嗣¹(¹琉球大・理・海洋自然、²茨城大院・農・資源生物、³科博・植物). ナンバンキンギンソウとヒゲナガキンギンソウ(ラン科)の分子系統学的再検討
- P40 *富永篤(琉球大・教育)・松井正文(京大・人環)・中田勝士(環境省). ホルストガエルの遺伝的分化
- P41 *古田さゆり・中西希(琉球大・理)・濱田巧(沖縄森林管理署)・伊澤雅子(琉球大・理). イリオモテヤマネコ *Prionailurus bengalensis iriomotensis*の生息密度推定
- P42 *山本誉士(極地研・北大水産)・河野裕美(東海大・沖セ)・水谷晃(東海大・沖セ)・依田憲(名古屋大・院). 仲ノ神島におけるオオミズナギドリの巣穴構造と繁殖個体数推定

- P43 *堀江明香・高木昌興・佐々木健志・傳田哲郎・小林峻・後藤健志・伊澤雅子. ビロウの繊維に依存した巣づくりをするダイトウメジローヤシ科食害虫の侵入の影響は？
- P44 *塩野貴之・楠本間太郎・久保田康裕(琉球大・理)・木島真志(琉球大・農)・吉本敦(統数研). 日本産維管束植物の保全重要地の検討
- P45 *楠本間太郎・塩野貴之・久保田康裕(琉球大・理). 自然保護区の配置と生物多様性パターンの関係：維管束植物の進化的固有性を考慮した分析
- P46 *宮城祐太(琉球大・院・理工)、久保田康裕(琉球大・理). 琉球諸島のサンゴ礁生物群集の進化的固有性の評価
- P47 *井上太之(東海大・沖縄地域研), 南條楠土(東京大・大気海洋研), 北野忠(東海大・教養)・木村賢史(東海大・海洋)・河野裕美(東海大・沖縄地域研). 西表島網取湾ウダラ川における魚類と甲殻類の群集構造
- P48 *岡部憲和(九大・シス生)・相場慎一郎(鹿大・理工)・佐藤永(JAMSTEC)・矢原徹一(九大・理). 草食動物の摂食圧増加に伴う森林更新への効果の推定：SEIB-DGVMを用いて
- P49 *北野忠(東海大・教養). 西表島における大型淡水巻貝マルタニシとスクミリンゴガイの生息状況
- P50 *奥野淳兒. アゴアマダイ科魚類と共生するムカシカクレエビ属（十脚目：テナガエビ科）の1未記載種
- P51 *荒井秋晴(九歯大・総合教育)・足立高行・桑原佳子(応用生態研). テンの生息状況からみたダム湖の水位変動帯の利用
- P52 *永井靖弘・西田弘之・横倉厚(いであ(株))・仲松徳修・高良茂宏(内閣府 沖縄総合事務局). 沖縄島中南部に生息するオキナワコキクガシラコウモリの生息状況について
- P53 *渡邊謙太(沖縄高専)・T. Y. Aleck Yang(台湾自然史博物館)・Tai-LiangHuang(台湾自然史博物館)・仲尾錦(沖縄高専)・井口亮(沖縄高専)・菅原敬(首都大・牧野標本館). 台湾南東部緑島におけるボチョウジ属3種の生育地接触と環境について
- P54 *合田雅浩(琉球大院・理工・海洋自然)・横田昌嗣(琉球大・理・海洋自然)・伊澤雅子(琉球大・理・海洋自然)・小林峻(琉球大院・理工・海洋環境)・阿部悠(琉球大・理・海洋自然)・東和明(オフィスキーポイント)・傳田哲郎(琉球大・理・海洋自然). 南大東島におけるビロウ（ヤシ科 *Arecaceae*）の開花フェノロジー
- P55 *大慈彌みち子(琉大・理)・中野義勝(琉大・熱生研)・嘉手納丞平(琉大・熱生研)・田中健一(京大・iPS研)・酒井一彦(琉大・熱生研)・須田彰一郎(琉大・理)・藤淵航(京大・iPS研)・竹山春子(早大・理工). 沖縄県瀬底島近海の2地点における長期的海水モニタリング
- P56 *入本敦史(琉球大院・理工・海洋自然)・横田昌嗣(琉球大・理・海洋自然)・傳田哲郎(琉球大・理・海洋自然). 大東諸島におけるクサトベラ（クサトベラ科）の送粉生態に関する研究

- P57 *藤本真悟(琉球大院・理工)・山平寿智(琉球大・熱生研). 高緯度における繁殖の季節的集中がもたらす実効性比の偏りの消失
- P58 *河野裕美・水谷晃(東海大学沖縄地域研究センター). 仲ノ神島におけるシロガシラカツオドリ *Sula leucogaster brewsteri* の初繁殖
- P59 河野裕美・水谷晃・崎原健(東海大沖縄)・*蔵持登士江・岩崎彩加(東海大海洋). 西表島北西部における熱帯性海草ウミシヨウブ群落の分布と現状評価
- P60 *松本祥子・依田憲(名古屋大学・環境)・大下誠二(国際水産資源研究所)・河邊玲(長崎大学・環東シナ海セ). GPS衛星送信機を用いた男女群島のオオミズナギドリの採餌行動圏の解明
- P61 *仲地学¹・金城道男¹・中谷裕美子¹・岩崎哲也²・中岡香奈²・中西啄実²・大沼学³・岡野司³・羽賀敦³・伊澤雅子⁴・阿部悠⁴・小林峻⁴・傳田哲郎⁴・東和明⁵・山城須賀子¹・金城貴也¹・長嶺隆¹(¹NPO法人どうぶつたちの病院 沖縄、²大阪市立大学理学研究科動物機能生態学研究室、³独立行政法人 国立環境研究所生態遺伝情報解析研究室、⁴琉球大学理学部海洋自然科学、⁵オフィスキーポイント). 南大東島におけるノネコ等による野生動物の被害実態
- P62 *儀間朝宜(浦添高校). 大山湿地帯の生物相調査

2日目 一般口頭発表 5月25日(日)

A会場 共通教育棟2号館2階 2-205
B会場 共通教育棟2号館2階 2-201
C会場 共通教育棟1号館1階 1-118
D会場 共通教育棟1号館2階 1-217

A会場 共通教育棟2号館2階 2-205
B会場 共通教育棟2号館2階 2-201
C会場 共通教育棟1号館1階 1-118
D会場 共通教育棟1号館2階 1-217

※各学会の発表件数の都合で、一部の講演は発表希望の学会とは異なる会場になっています。ご自身の講演の会場をプログラムでご確認ください。大まかには、A会場が日本動物学会九州支部会、B会場が九州沖縄植物学会、C会場が日本生態学会九州地区会、D会場が沖縄生物学会、となっています。

A会場

- 09:00~09:15 A01 *清原貞夫(鹿児島大学)・John Caprio(Louisiana State University).
ゴンズイの超 pH 感受性を用いた摂餌行動
- 09:15~09:30 A02 *大木駿(琉大・熱生研)・Kowalski Radoslaw(Polish Academy of
Sciences)・守田 昌哉(琉大・熱生研). 受精の特異性はミドリイシ属サンゴの生殖隔
離に関与するか?
- 09:30~09:45 A03 *守田昌哉(琉大・熱性研). ミドリイシ属サンゴに局在する種特異的な
受精に関与するタンパク質の探索
- 09:45~10:00 A04 *小泉修・市丸ゆかり・稲葉貴子・美濃部純子(福岡女子大・人間環境).
中枢神経系の起源と進化：刺胞動物の神経環
- 10:00~10:15 A05 *尾立佳織・飯田弘. 精子鞭毛の外側緻密線維構成蛋白質ODF1と相互
作用する分子の解析
- 10:15~10:30 A06 *金子たかね・飯田弘(九大院・農・動物). マウスにおける4回膜貫通
型タンパク質Ms4a13の局在解析
- 10:30~10:45 A07 *福田敦子・金子たかね・飯田弘(九大院・農・動物). 哺乳類生殖細胞
に局在するTmco5Aの解析
- 10:45~11:00 A08 *池田瑛人・飯田弘(九州大院・農・動物学). ラット精巣上体における
lipocalin10の発現と局在
- 11:00~11:15 A09 *平田圭・Thomas Carle・渡邊英博・横張文男(福岡大・理・地球圏). 社
会性昆虫クロオオアリの巣仲間認識に関わる触角感覚子の嗅応答の特徴
- 11:15~11:30 A10 *椋本聖悟・渡邊英博・横張文男(福岡大・理・地球圏). ワモンゴキブリ
二次嗅覚ニューロンの匂い刺激応答と形態解析

11:30~11:45 A11 *原口貴寛・渡邊英博・横張文男(福岡大・理・地球圏). 膜翅目類昆虫の脳構造の進化過程の解析

11:45~12:00 A12 *財津将平¹、柴田弘紀²、仁田坂英二¹(¹九大・院理、²九大・生医研). アオダイショウにおけるアルビノ変異の原因遺伝子の解析

12:00~12:15 A13 *広瀬裕一(琉大・理)・熊谷明・縄田暁(宮城県・水産技術)・北村真一(愛媛大・理). ホヤ被囊軟化症の病原虫“ホヤムシ”はどこからマボヤの被囊に入るのか?

B会場

09:00~09:15 B01 *楠見健介(九州大・院・理・生物科学)・橋村綾菜(九州大・院・システム生命)・射場厚(九州大・院・理・生物科学). イネの気孔閉鎖因子SLAC1の生育段階依存性

09:15~09:30 B02 宮本菜摘・*仁田坂英二(九大・院理) アサガオにおけるトランスポゾンTpn1ファミリーの転移活性化機構

09:30~09:45 B03 *高石あすか(熊大・院・自然科学)・副島顕子(熊大・院・自然科学). 日本におけるオキナグサの遺伝的多様性と遺伝構造の現状

09:45~10:00 B04 *内奈保子¹、重信秀治²、九町健一¹、阿部美紀子¹、東四郎¹、内海俊樹¹(¹鹿児島大・院理工、²基礎生物学研究所・生物機能解析センター). 共生器官特異的な宿主由来システインリッチペプチドの特徴

10:00~10:15 B05 *稲嶺咲紀¹・九町健一¹・阿部美紀子¹・内海俊樹¹・平良東紀²(¹鹿児島大・院理工、²琉球大・農). ヒメツリガネゴケ由来キチナーゼおよびキチンエリター受容体の発現解析

10:15~10:30 B06 *福留光拳・角友博・小薄健一・九町健一・阿部美紀子・東四郎・内海俊樹(鹿児島大・院・理工). 根粒菌との共生における植物ヘモグロビンのNO調節機能

10:30~10:45 B07 *吉村光(琉球大・院・理工)・横田昌嗣(琉球大・理)・傳田哲郎(琉球大・理). アカボシタツナミソウ種内に見られる発芽・休眠特性の変異

10:45~11:00 B08 *中嶋翔太・副島顕子(熊大・院・自然科学). アリと関係を持つムラサキシキブ属*Callicarpa*の形態的特徴と系統関係

11:00~11:15 B09 *江原涼美(九州大・院・システム生命)・射場厚・楠見健介(九州大・院・理・生物科学). 葉の発生初期に特異的に働く葉緑体転写制御因子NUS1の解析

11:15~11:30 B10 *古池優希・仁田坂英二(九大・院理). アサガオにおける向軸側形成に関与するPOLYMORPHIC遺伝子およびBLOWN遺伝子の解析

11:30~11:45 B11 *伊東拓朗(茨大・連携院・農)・齊籐由紀子(琉大・教)・Qin-er YANG(華南植物園)・Chen REN(華南植物園)・横田昌嗣(琉大・理・海洋自然)・國府方吾郎(科博・植物). 琉球列島産マンネングサ属2種の分子系統解析を用いた分類学的再検討

11:45~12:00 B12 *新垣裕治(名桜大・観光). 沖縄屋我地島の饒平名干潟に分布拡大するヒルギダマシ(*Avicennia marina*)に関する研究~干潟生態系へ与える影響について~

12:00~12:15 B13 *飯田勇次(玄海地区海藻研究会)・弓山あゆみ(唐津市立佐志中学校)・山崎寛己(唐津市立佐志中学校)・片山舒康(生物教育研究所). 中学校家庭科-五大栄養素の学習-に海藻の実験を取り入れた実践例

C会場

09:00~09:15 C01 *田川一希(九大・院・生態)・渡辺幹男(愛知教育大・教育)・矢原徹一(九大・理). ポリネーターも食べちゃおう!—食虫植物ナガバノイシモチソウの生存戦略に迫る

09:15~09:30 C02 *江口和洋(九大院・理・生物)・中原亨(九大院・システム生命)・徳淵信人(九大・理・生物). 特別栽培水田における大型サギ類の場所利用と採餌行動に関する研究(予備的研究)

09:30~09:45 C03 中井桃子(琉大・農)・柿嶋聡(静岡大)・下地博之(北大)・立田晴記(琉大・農)・辻和希(琉大・農). 本部町におけるコノハチョウ成虫の発生動態と生息環境

09:45~10:00 C04 *森敬介(国水研)・金谷弦(国環研). 水俣湾における水銀の生物濃縮に関する研究—安定同位体分析による食物履歴の検討—

10:00~10:15 C05 *棚村太輔(琉球大・院・理工)・広瀬裕一(琉球大・理). チドリミドリガイ *Placobranchus ocellatus* の個体群動態と出現水温

10:15~10:30 C06 *宮川(岡本)美里・Mikheyev Alexander (OIST・生態進化学ユニット). 単為生殖アリ *Wasmannia auropunctata* がオスを維持する理由

10:30~10:45 C07 *小林峻(琉球大・院・理工、JSPS特別研究員DC1)・谷本拓夢(琉球大・理)・碓井良太(琉球大・院・農、現・神奈川県南足柄市)・伊澤雅子(琉球大・理). ヤエヤマツダナナフシの分泌液噴射による天敵防御の効果

10:45~11:00 C08 *村上智一(防災科技研). 数値シミュレーションを用いた西表島網取湾のウミシヨウブ種子の分散力評価

11:00~11:15 C09 *高田未来美(東京大・大海研)・立原一憲(琉球大・理)・西田睦(琉球大). 琉球列島在来フナの分布の詳細とその保全について

11:15~11:30 C10 *池上太郎(琉球大・理)・大山由貴(琉球大・院・理工)・竹村明洋(琉球大・理). ミナミトビハゼの潮汐性活動リズム

11:30~11:45 C11 *廣瀬陽・岡田二郎(長崎大院・水環)・藤崎顕彰・内田誠一(九大院・シス情). チゴガニの集団的ウェービング行動の画像解析

11:45~12:00 C12 *大瀧丈二(琉球大・理). チョウの色模様形成における誘導モデルとタテハチョウ基本プランの改訂

12:00~12:15 C13 *平良渉(琉大院・理工)・田川聡美(九大院・生資環)・大瀧丈二(琉大・理). リュウキュウウラボシシジミ(鱗翅目シジミチョウ科)の形態解析と分子系統解析

D会場

09:00~09:15 D01 *中本敦(琉球大・理)・伊澤雅子(琉球大・理)・岡村麻生(西表大原ヤマネコ研究所). ダイトウオオコウモリと北大東島住民との関わりーおよそ25年前との比較から

09:15~09:30 D02 *石垣圭一・井村信弥・渡辺信(琉球大・熱生研). リュウキュウイノシシの保護と共生のためのくくり罫猟の研究

09:30~09:45 D03 *藤田喜久(琉大・大教セ/海研)・笹井隆秀(神戸市立須磨海浜水族園). 宮古島に定着したヤエヤマシガメによるミヤコサワガニの捕食の現況と防除(駆除)活動について

09:45~10:00 D04 *水谷晃・河野裕美(東海大沖縄)・福田真・阪口法明(環境省). 西表島におけるカンムリワシの生息状況のモニタリング

10:00~10:15 D05 *土方雅史(日本大・生物)・千葉暁允(日本大・生物)・小原陸丸(日本大・生物)・伊藤考良(日本大・生物)・村田浩一(日本大・生物). 沖縄島北部の畜産団地およびその周辺地域における野生動物の出現実態

10:15~10:30 D06 *中西希・伊澤雅子(琉球大学理学部). 胃内容物からみたイリオモテヤマネコの食性

10:30~10:45 D07 *清水彩子(日本大・生物)・阿部慎太郎(環境省・那覇自然環境事務所)・村田浩一(日本大・生物). 沖縄島に生息するグリーンアノールのSalmonella保菌

10:45~11:00 D08 *石橋佐和子(日本大・生物)・千葉暁允(日本大・生物)・村田浩一(日本大・生物). ヤンバルクイナが利用する農場周辺環境における薬剤耐性大腸菌の分布実態

11:00~11:15 D09 *渡久地政汰¹・鼠尾まい子¹・東春奈¹・伊波朋哉¹・大城彩音¹・外山博英²・塚原正俊¹(¹バイオジェット、²琉球大学・農). 第3の泡盛醸造微生物「もろみ微生物」の網羅的菌叢解析

11:15~11:30 D10 *伊波朋哉¹・鼠尾まい子¹・東春奈¹・渡久地政汰¹・大城彩音¹・外山博英²・塚原正俊¹(¹バイオジェット、²琉球大学・農). 新規ハイビスカス酵母を用いた泡盛の醸造特性と香味への影響

11:30~11:45 D11 與儀健太郎・佐久川さつき・*大城直雅・安元健. 沖縄産シガテラ魚におけるシガトキシン類組成

11:45~12:00 D12 *嶋津信彦. 沖縄島倉敷ダム貯水池のオオクチバスとブルーギルおよびその胃内容物について

12:00~12:15 D13 *辰野竜平(長大院水環)・上田慎也(長大水)・高谷智裕・荒川 修(長大院水環). オキナワフグにおける体内毒分布の変化と毒分泌腺の分化

-----昼休み-----

-----沖縄生物学会総会-----

14:00～14:15 D14 *柴田弘紀(九大・生医研)・山本真由美(九大・生医研)・タケツト奈々(九大・生医研)・小川智久(東北大・生命科学)・森一樹(九大・農)・千々岩崇仁(崇城大・生物生命学部)・服部正策(東大・医科研)・上田直子(崇城大・薬学部)・久原哲(九大・農)・大野素徳(崇城大・生物生命学部)・服巻保幸(九大・生医研). ハブ (*Protobothrops flavoviridis*) の全ゲノム配列決定の現状と展望

14:15～14:30 D15 *宮本圭・木野将克・前田好美・河津勲. 沖縄島周辺海域より得られたヒメミガメの遺伝的集団の検討

14:30～14:45 D16 *賀数大吾(琉球大院・理工)・立原一憲・今井秀行(琉球大・理). マイクロサテライトDNA解析によるタカサゴ属2種の遺伝的集団構造解明の試み

14:45～15:00 D17 *昆健志(東邦大・理)・西田睦(琉球大)・佐土哲也・宮正樹(千葉中央博). 川と海を回遊するイーブーの起源：ハゼ亜目魚類における両側回遊の進化プロセス

15:00～15:15 D18 *大野良和(琉球大学・理工)・井上麻夕里(東大・大気海洋研)・井口亮(沖縄高専・生物資源工学)・西田梢(産総研・地質情報)・中村崇(琉球大学・理工)・鈴木淳(産総研・地質情報). サンゴ初期ポリプを用いた石灰化イメージング

15:15～15:30 D19 *山城秀之(琉大・熱生研・瀬底). 瀬底島におけるサンゴのブラックバンド病(Black Band Disease)の蔓延

15:30～15:45 D20 *成瀬 貫(琉球大・熱生研)・上野大輔(琉球大・熱生研)・矢野維畿(ダイブサービスYANO)・James Davis Reimer(琉球大・理)・藤田喜久(琉球大・大学教育センター)・坂巻隆史(東北大・災害科学国際研究所). 八重山諸島に存在する上部中深度サンゴ群集について

15:45～16:00 D21 *横田昌嗣¹・佐藤宣子²・阿部篤志³・仲宗根忠樹⁴・山崎仁也⁵・知念美香⁶・齊藤由紀子⁷(¹琉球大・理・海洋自然、²宮古島市教育委員会・文化財係、³沖縄美ら島財団、⁴ツドイカンパニー、⁵沖縄県立博物館・美術館、⁶名護商工高校、⁷琉球大・教育・理科教育). 南琉球から見つかった日本新産の2種の蔓植物について

特別公開講演

5月24日（土）16：20～17：50

大学会館3階（P会場）

琉球諸島の世界自然遺産登録に向けて：琉球諸島の生物多様性と保全の現状

奄美・琉球諸島の世界自然遺産登録の課題

吉田正人 氏（筑波大学大学院・人間総合科学研究科・世界遺産専攻）

世界遺産条約は、1972年にユネスコ総会において採択されてから40年以上、1992年に我が国が加盟国となってから20年以上が経過した。1994年には、先進国と途上国との世界遺産リスト登録数のアンバランスが問題となり、その解消のため、グローバルストラテジーが採択された。一方、各国からの推薦が加速されるにつれ、世界遺産リストの代表性、信頼性が問題となり、2000年の世界遺産委員会において、IUCNに対して代表性、信頼性を持った均衡のとれた世界遺産リストに関する研究が求められた。その結果、自然遺産・複合遺産は、ほぼすべての生物地理区、生物群系をカバーしているが、数・面積の上で偏りがあり、極地、ツンドラ、温帯草原、砂漠などは少ないことがわかった。2004年にIUCNから報告書が提出されて以降、これらのギャップとなっている自然遺産の登録が推奨され、実際に登録が推進されている。

2003年に環境省・林野庁が開催した世界自然遺産候補地に関する検討委員会において、知床、小笠原諸島とともに琉球諸島が世界遺産候補地となった。このうち、2005年に知床が、2011年に小笠原諸島が、世界遺産リストに記載されたが、奄美・琉球諸島が世界自然遺産に登録されるためには課題が多く残されている。これらの候補地の検討にあたっては、顕著な普遍的価値のみならず、ウドゥバルディによる生物地理区分ごとの分析が行われた。琉球諸島区は独立した生物地理区分であり、WWFのグローバル200エコリージョンやCIの生物多様性ホットスポットにも指定され、保全上重要な地域であることは間違いない。一方、完全性、国内法による担保という点からは、外来種問題や国立公園の指定など課題が残されている。

また、2004年には32%を占めるに過ぎなかった海域の自然遺産は、2012年には51%を占めるまでになったが、これはハワイとキリバスの海洋保護区の自然遺産登録に負うところが大きく、琉球諸島を含むアジア地域のサンゴ礁で自然遺産に登録されているものは少ない。奄美・琉球世界自然遺産候補地科学委員会では、陸域の生態系・生物多様性の検討は行われたが、海域の価値の検討は十分ではないと感じる。慶良間国立公園の指定など、新たな動きの中で、陸域と海域の連続性を考えた世界自然遺産登録を検討すべきであろう。

(yoshida_masahito (at) heritage.tsukuba.ac.jp)

琉球諸島の生物多様性保全のための保護区配置と生態系管理

久保田康裕 氏（琉球大学・理学部）

琉球諸島は生物多様性ホットスポットの一つとして注目され、その学術的価値を背景に、世界自然遺産の候補地となっている。一方で、残念なことに、琉球諸島の自然は様々な人為インパクトで危機的な状況にあることも事実である。よって、琉球諸島の貴重な生物相を効果的に保全するための戦略、すなわち“実効性があり実行可能な策”の考案が、進化生態学者に課せられたミッションとなっている。

生物多様性の保全戦略を具現化するには、1) マクロ（あるいは国家）スケールの保全指針、2) 地域スケールの保全計画を、シームレスに体系立てて検討する必要がある。生物多様性の急速な劣化が懸念されるようになり、「経済的な制約の下で、保全すべき生物多様性を最大化する保護区の最適配置とはどのようなものか？」という“ノアの方舟問題”が提示されている。この課題を検討することで、マクロスケールで見た場合の保全上の重要地域を明示でき、国家レベルでの保護区配置の方針を決定できる。一方、地域スケールで保護区配置をみた場合、保護区設置に伴う経済活動の制約が問題となる。したがって、保護区配置と地域の経済活動のトレードオフ関係（保護区設置による経済的損失）を分析し、利害関係者と合意形成を図ることが課題となる。

本講演では、琉球諸島の生物多様性の保全戦略を、進化生態学的な観点から分析した結果を紹介する。維管束植物群集をモデルシステムとし、現状の保護区配置の問題点、および、生物多様性を漏らさず保全するための保護区の最適配置策を示す。これより、マクロスケールの視点から、琉球諸島における保護区設置が、生物多様性の保全戦略上いかに重要であるかを証明する。さらに、琉球諸島の森林モニタリングデータとモデル分析の結果に基づき、現状の森林管理の問題点、林業収益と生物多様性劣化の関係性を示す。これより、地域スケールの利害調整の視点から、生物多様性保全を考慮した森林生態系管理のオプションを提案する。

(kubota.yasuhiro (at) gmail.com)



Fascination of
Plants Day
May 2014

本特別公開講演は、Fascination of Plants Day（国際植物の日）参加イベントです。